

高齢者が高齢者を支援するスマホ講座の可能性に関する研究（その1）

: 高齢者が支え手側に廻る持続可能なまちづくりの現場から

【目的】

スマホ講座・教室は各所で開催されているが、課題も多く高齢初心者にとってスマホを学ぶためのサポート環境は充分とは言い難い。その中で兵庫県宝塚市に拠点を置くNPO法人で考案された“同世代チューターを受講者数名毎に配置した個別常時サポート方式”を採用した講座が好評である。高齢者の生きがい（プチ）就労としてのチューターの有効性と課題を探る。（チューターは有償で時給千円＋交通費を支給）

【方法】

チューターの方々（チューター候補養成講座のみ参加された方で未活動者含む）へ全20問のアンケートを実施し、参加のきっかけ、動機、活動頻度、満足度や改善要望点などを調査した。アンケート実施に際しメールを使用した。メール送付の宛先を bcc に、依頼文には調査データは統計的に処理され個人名が出ない旨を記載、分析時には対象者の個人情報匿名加工することにより個人が特定されないよう配慮した。

【結果】

アンケート送付（対象者）20名に対し有効回答者は14名で平均年齢は70歳だった。チューター参加の動機は「ボランティア活動をしている福祉施設担当者からの勧め」「NPOの活動に共感して」、参加の動機は「自分が地域や周囲の人に貢献できる方法だったから」「スマホの操作ノウハウをもっと知りたくて」「時間を有効活用したかったから」の順が多かった。9割を超える人がチューターをやって良かったと答え、その理由は「自分の操作スキルが向上した」「受講生の伴走者として達成感が得られた」「新しい活動分野ができた」「講座受講生に喜ばれた」、今後の要望・改善点としては「定期的な研修」「自宅に近い所での活動場所の設定」「講座開催（チューター募集）情報・応募システムの整備」「交流会の開催」などが挙げられた。

【考察】

学術的には不十分な調査であったが、高齢者の生きがい就労としてのスマホチューターは有効であり、その参加者を増やすためには、時給よりも自分のスキルアップと他者への貢献（対する感謝）や達成感について訴求することの重要性が確認できた。

【結論】

高齢者向けスマホ講座でのチューターの役割は大きい。スマホ使用歴がそう長くない高齢者でもチューターを担うことは可能であり、DXの中、高齢者が高齢者を支える新しい生きがい就労分野の一つとしてのチューターの位置付けが見えてきた。定期的なアップデート研修等と、他者支援による自己肯定感、自己効力感の体験を共有・強化するなど仕組み・環境を整えることで、それが軌道に乗ると考えられる。

1. スマホ講座の課題とNPOが導入したチューターシステム

スマホ講座に参加した人達の声「よくわからない！」

課題1

参加者によってつまづいているポイントが違う
人のスキルレベル、能力、興味が多様性への対応

課題2

メーカー、機種によりボタンの位置や操作方法が違う
Android-OS機種(らくらくスマホ等)の多様な仕様への対応

シニア初心者向け スマホ講座の企画・運営

1. スマホ講座の課題とNPOが導入したチューターシステム

健康・生きがい就労ラボ スマホ講座のチューター制度

【位置づけ・仕事内容】

講師の説明する操作方法を受講者が自分のスマホを使いこなせるように常時サポート(伴走)する人。

受講者の日頃感じている疑問・質問にも応える。

通常受講生4人程度のグループに1~2名配置

(20人参加講座に5~10名) ※受講者の状況によってはマンツーマンも

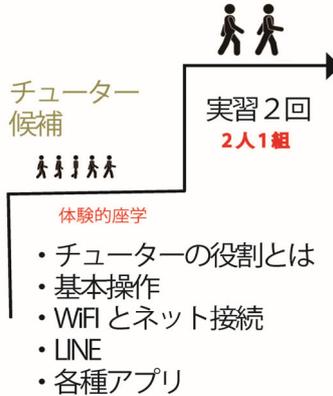


1. スマホ講座の課題とNPOが導入したチューターシステム

【チューターになるには】

チューター候補養成講座を経て、スマホ講座に見習いチューターとして2回実習を経験することで認定。

※講師陣が実力ありと認める場合は上記の課程を踏まない場合がある。



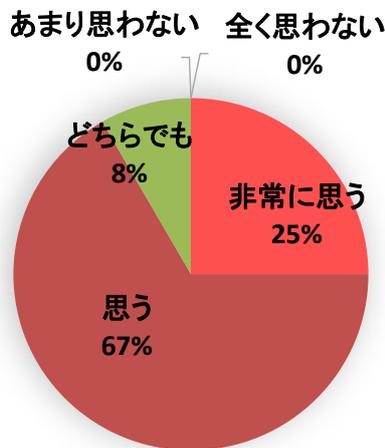
+クレド

認定チューターには、高齢者の小仕事と位置付け 謝金、交通費を支給

2. チューター向けアンケート調査について

チューターをやって良かった理由

チューターになって良かったか？



チューターをやって良かった理由

(複数回答有)

